

ASO



ゆっくりのんびり
阿蘇大陸

数十万年の時空を超える感動体験

阿蘇ジオパーク

GEO PARK



阿蘇ジオパーク推進協議会

阿蘇に親しむ

それは 阿蘇の大地の成り立ちを知り
この大地に暮らす人々の歴史や今を知ること
阿蘇ジオパーク 時空を超える旅が始まる



ジオパークとは

ジオ（地球、大地）を科学的に観察して、特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産（例えば、地層、岩石、地形、火山、断層など）が数多く点在する地域、大地の公園をジオパークといいます。さらに、ジオパークは場所だけでなく、その土地の風土ならではの祭事や暮らしといった“そこに住む人々の文化”もまた対象となります。

ジオパークでは、これらの自然遺産を保護し研究に活用しながら、自然と人間との関わりを理解する場所として整備し、科学教育や環境教育、防災教育の場として、また新たな観光資源としてジオツーリズムを通じて地域社会の活性化を目指します。

ジオパークは保護と活用の両方を重視する点が、主に保護を目的とする世界遺産とは異なる点です。一般の人が近づけない、あるいは保護のためには近づきたくないような場所は、ジオパークとはなりません。

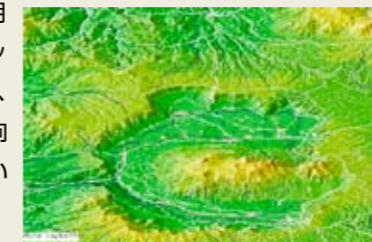
阿蘇山

九州の中部にある阿蘇カルデラは、東西約 17km、南北約 25km、面積約 350km²と、世界最大級の規模を誇り、この中央部に噴煙を上げ続ける中岳を始めとする阿蘇五岳（高岳、根子岳、杵島岳、烏帽子岳）と多くの山体で構成される火山群“中央火口丘”があります。火山群の南北の山麓には“平地”が広がり、火山群と平地を取り巻く“外輪山”は外側になだらかな火砕流台地を形成しています。「阿蘇山」という単体の山はありませんが、学術的にはこれらの外輪山までを含めて「阿蘇火山」と呼んでいます。



世界ジオパークネットワーク

ジオパーク運動はユネスコが支援する活動で、2004年に世界ジオパークネットワーク (GGN) が設立されました。阿蘇地域は今年 10 月に、日本ジオパークネットワークに登録され、さらに GGN 登録に向けた取り組みを進めています。



ジオサイト

ジオパークを構成する個々の観察点をジオサイトといいます。阿蘇ジオパークでは、百数十所のジオサイトを、「地形・地質に関するサイト」、「歴史・文化関係サイト」、「人々の暮らしに関するサイト」、「博物館等に関するサイト」の 4 つに区別し構成しています。



阿蘇ジオパークの魅力

阿蘇火山は、世界有数の巨大なカルデラや、多くの火山体で構成される火山群などの雄大かつ多様な火山地形・地質を特徴とします。この大自然を舞台に有史以前から数万年以上にわたって人間の生活が繰り返され、特有の文化や景観が育まれてきました。阿蘇ジオパークには、カルデラおよび周辺地域を含む広大な地域が含まれ、様々な火山地形・地質を中心とする多くのジオサイトが存在します。

阿蘇火山 大地の成り立ち

阿蘇カルデラ

阿蘇火山は約27万年前に誕生し、以後活発な火山活動を繰り返してきました。明瞭な陥没地形を見ることができる今のカルデラは、およそ9万年前の大規模な火砕流噴火に伴って形成されたもので、また、その噴火による火砕流の堆積物が海を隔てた島原や天草、また山口県でも確認されています。現在、世界有数の規模を誇るこのカルデラの中やその周辺に7万人余りの人々が生活し、古くから火山と共生して独特の文化を育んでいます。



中央火口丘とその周辺

カルデラ内の火山群は、多くの山体で構成されています。これらの火山の中は、多様な火山型が含まれ、また形成時期も様々です。このため、各々の火山体の地形、構成物、内部構造などは全体としてきわめて多様で、火山の成り立ちを理解するうえで基本的かつ重要なジオサイトが各所に多数存在します。中でも、中岳火口の周辺には様々な火山噴出物、火山地形、特有の植生など、火山地域としてはきわめて特異な風勢地形（砂丘など）も認められることから、火山活動や火山噴出物、地形、植生などを総合的に理解するうえで示唆に富む優れたジオサイトです。



◀中岳火口

中岳火口は、阿蘇観光の中心地で、活動的な火口を見物できる数少ない場所のひとつである。中岳火口では最近千期間は火山灰の噴出を中心とし、活動期にはマグマ水蒸気爆発やストロンボリ式噴火、静かなときには噴気活動と火口内に湯だまりを形成する活動が繰り返されてきた。



▲砂千里ヶ浜

数千年前に形成された中岳新期山体の火口原。黒い砂やスコリアの細粉で覆われている。堆積物は火砕丘の開析に伴う扇状地堆積物が多い、そのなかには火山弾や多量の噴石などが見られる。またわずかながらもイタドリなどの植物も生育している。



▲米塚

約2千年前に形成された典型的なスコリア丘で、国内では最も均整のとれたもののひとつ。

◀草千里ヶ浜

約3万年前に形成された直径約1kmの火口の中に、約400mの火口が生じた二重の火口である。現在2つの池が見られるが、西側の池が外側の火口底、東側の池が内側の火口である。内側の火口は、デイサイト質の溶岩ドームが吹き飛ばされたものであり、その一部が「駒立山」として残っている。



カルデラ内

カルデラ内の平地は、火山群の北側と南側に広がり、それぞれ阿蘇谷、南郷谷と呼ばれています。阿蘇谷を流れる黒川、南郷谷を流れる白川それぞれの流域に形成された沖積平野で、そこに多くの集落があり、全域に水田や畑が広がっています。

このジオサイトは、自噴井を含む多くの湧水地や温泉、また過去の環境の変化を物語る泥炭地や黄土、かつてのカルデラ湖の存在を物語る湖性堆積物、白川や黒川にかかる滝など、水や河川に関するものが多く見られるのが特徴です。



立野溶岩の柱状節理

カルデラ西端の立野峡谷付近の立野溶岩に発達する柱状節理。黒川右岸の谷壁に露出する溶岩の厚さは約100mにも及び、上部と下部とで柱状節理のパターンに差異が認められる。



らくだ山

阿蘇カルデラ南東部のカルデラ壁を構成する先阿蘇火山岩（玄武岩質火砕岩類）を切って貫入した岩脈で、厚さ約5m、ほぼ東西方向に長さ数十mにわたって露出している。岩脈の外殻面や断面の柱状節理の形状を観察できる。



外輪山

外輪山は、地形的な差異により、内側のカルデラ壁と外側の外輪山斜面とに区分されます。カルデラ壁には先阿蘇火山岩類とそれを覆う火砕流堆積物が随所に露出しています。ここにはカルデラ形成後の地形変化などを知る手掛かりを与える優れたジオサイトが各地に存在します。外輪山斜面は、カルデラ縁の外側に広がる全体としてなだらかな高原地域で、主にカルデラ形成に関与した火砕流堆積物からなる火砕流台地・丘陵、波状地形などで構成されています。

▶押戸ノ石

北外輪山の火砕流台地のなかに島状に取り残された丘の上に並ぶ安山岩の岩峰群で、最大のもは高さ約5mある。古くから磐座として地元の人々に祭られてきた。これらの岩峰群は古代の遺跡であるとする見方がされてきたが、岩脈を起原とする岩峰群の可能性もある。



▼荻岳

周囲を取り囲む阿蘇火砕流堆積物の火砕流台地から突出した島状の小山地で、流紋岩からなる。山頂からの眺望に優れ、周辺の火砕流台地はもとより、阿蘇山・久住山・祖母山などの遠望パノラマが望める。周辺には、貴重なスズランの育成地もある。



◀遊水峡

阿蘇カルデラ北方の小河川にみられる岩盤河床で、阿蘇火砕流堆積物の溶結凝灰岩で構成される。砂礫などの河床堆積物を欠き、全体として平滑な岩盤の河床が数百mの区間にわたって発達する。平時の水深は数十cm程度で、河床や河谷壁ではユータキシチック構造を示す溶結凝灰岩の特徴を観察できる。



▶羅漢山奇岩群

カルデラ南西部の先阿蘇火山岩類からなる山稜帯に見られる岩峰群や“天然橋”状岩などの奇岩群である。おもに安山岩質の火砕岩で構成される。



▼蘇陽峡

阿蘇カルデラの南東側、外輪山に連なる標高550mの高原にある峡谷で、約15kmにわたる峡谷底を五ヶ瀬川が流れる。幅が200～300mで、谷壁は阿蘇火砕流堆積物（溶結凝灰岩）で構成される急斜面で、高さは200mほどにも及び。



◀大峰大地と高遊原台地

現在の阿蘇カルデラが生まれる直前、およそ9万年前頃に大峰火山が形成された。その際、大量の溶岩を流して、広大な溶岩台地（高遊原台地）をつくった。現在、その台地を「阿蘇くまもと空港」として利用している。



阿蘇の暮らしに会う旅

草原と人々の暮らし

中央火口丘の斜面と、外輪山からその外側に広がる広大な草原。これは訪れた人に、阿蘇の雄大さを強く印象づけるもので、国内外に誇れる素晴らしい景観です。この草原が原野として今も残っているのは、放牧、採草、野焼きなどの営みを千年以上にわたって自然と共生して維持してきた結果の二次草原であり、歴史的産物です。

特に早春の野焼きを行うことで、原野の森林化が妨げられ、火災や、大雨による川の崩壊も免れ、水資源の確保と土地の保全にもつながりました。

千年の歴史は『日本書紀』に“野が広く遠く広がっていた”という記述があることから確かです。その頃にはすでに広大な草原があったことがわかります。「延喜式」にも“二重の峠付近に牧場あり”との記述もあることから、阿蘇での放畜は、平安時代から続いていたと云われています。



噴火活動と信仰

中岳火口は、自然に対する畏敬の念を抱いていた古い昔から、人々の信仰の対象となっていました。阿蘇火山は神が宿る山なので、火山活動が活発化するなどの異変が生じると天下の凶事とみなされ、飢饉疫病が生じると信じられていたのです。このため、火山の異変は中央政府にも報告され、火の山の神・健甕龍命(たけいわたつのみこと)を主神とする阿蘇神社は、次第に国家的な崇拝を集めていきました。阿蘇神社の創立は実に約2,300年前までさかのぼり、阿蘇家91代の歴史が現在にまで続いています。

また、古代から中世に隆盛を極めた西巖殿寺(天台宗)の修験者らも、この山を信仰の対象として崇め、民衆は「小池さん参り」と称して火口への参詣なども行いました。

これらの信仰は、今なお連綿と継続されており、火山信仰という伝統のひとつの典型をなしています。



火振り神事▲



▲阿蘇神社
一宮健甕龍命を筆頭に、阿蘇十二神が祀られており、全国に500社以上の奉祭社をもつ。阿蘇山上広場にも「阿蘇山上神社」が存在する。今に伝わる阿蘇神社の神事は、「阿蘇の農耕祭事」として国の重要無形民俗文化財に指定されている。

豊かな湧泉と温泉

阿蘇カルデラとその周辺には、一般に火山地帯で見られるような多くの湧泉が存在します。湧泉の数は1,500カ所以上にのぼりますが、湧泉機構は複雑でそのすべてが解明されている訳ではありません。代表的なジオサイトとして「宮地・役犬原地区湧泉群」、「南阿蘇湧泉群」および「外輪山湧泉群」が挙げられます。

また、阿蘇には非常に多くの温泉地があります。火山活動における温泉水ではありますが、阿蘇地域に湧き出ているお湯の中のマグマ物質の占める割合は小さく、地表からしみ込んだ地下水が多いとされています。温泉に関係する火山としては、阿蘇火山はもちろんですが、北東端のすぐ北は九重火山に接しており、双方の影響を受けています。



▲山吹水源
阿蘇と久住の間に位置する湧水である。湧水量は毎分30トン、池山水源とほぼ同じ湧水量を誇り、くまもと名水百選にも選ばれている。

地獄温泉▶

中央火口丘の南西側斜面、標高700mほどのところに位置している。夜峰山からの爆裂火口内にあり江戸時代から湯治場として栄えてきた。



安心と安全のための対策

【草原の保全】
畜産農家の減少や高齢化などにより、草原の維持は地元の営みだけでは難しい状況となったことから「野焼きボランティア」の育成をはじめ、環境省が中心となって「阿蘇草原再生協議会」が設立され、草原環境の維持に向けた動きが始まっています。

【安全対策】
山岳地域においては、地元の有識者や警察・消防などにより、登山道の整備や危険箇所のチェックが行われ、それと同時に

阿蘇エコツアーリズム協会で「阿蘇エコツアーリズム・ガイドライン」が設定され、ジオツアーに対しても詳細な安全対策がまとめられています。

【警戒体制】
中岳は現在も活動を繰り返す活火山です。「阿蘇火山防災会議協議会」で、火山活動の活性化に備えて監視が続けられ、活動が活発化した際の様々な状況に合わせた規制措置が取り決められています。

案内人と共に歩くジオサイト／ジオツアーリズム

阿蘇の雄大な自然の中を歩いてみましょう。ジオツアーリズムは、阿蘇火山が作りだした様々な自然の景観を楽しみ、阿蘇に暮らす人々の営みにふれ、その歴史をたどる旅。案内人は、見落としてしまいそうな風景に、山野草に足を止め、色々な阿蘇物語があることを教えてくれます。

阿蘇の自然は、阿蘇に住むの人々の暮らしや文化に大きな影響を与えています。阿蘇のジオツアーは、地元の文化と関わったストーリーのあるプログラムも多く組まれています。



中央火口丘コース 中岳火口トレッキング

スタート地点は仙酔峡、火山やカルデラ地形を学びながら中岳火口、中岳山頂を経由して高岳を目指す本格トッキングコースです。

阿蘇火山博物館内にあるNPO法人阿蘇ニュージウムでは、「阿蘇インタプリター(阿蘇の自然・文化の解説者)」を養成し、ジオツアーの案内人として、阿蘇の素晴らしさ、面白さを伝えています。

北外輪山・小国コース
草原・溪流トレッキング
マゼノ溪谷の岩盤の上を流れる清流の中を歩きながら巨木や高山植物を観察、さらに美しい草原の展望を楽しみながら巨石群のある押戸石山に登るコースです。



南外輪山コース
ブナ原生林トレッキング
南外輪山の地蔵峠から尾根伝いに連なるブナや杉の巨木の原生林を観察するコース。さまざまな植物などの解説を聞きながら進みます。森の生命の営みと自然の循環を学ぶことができます。

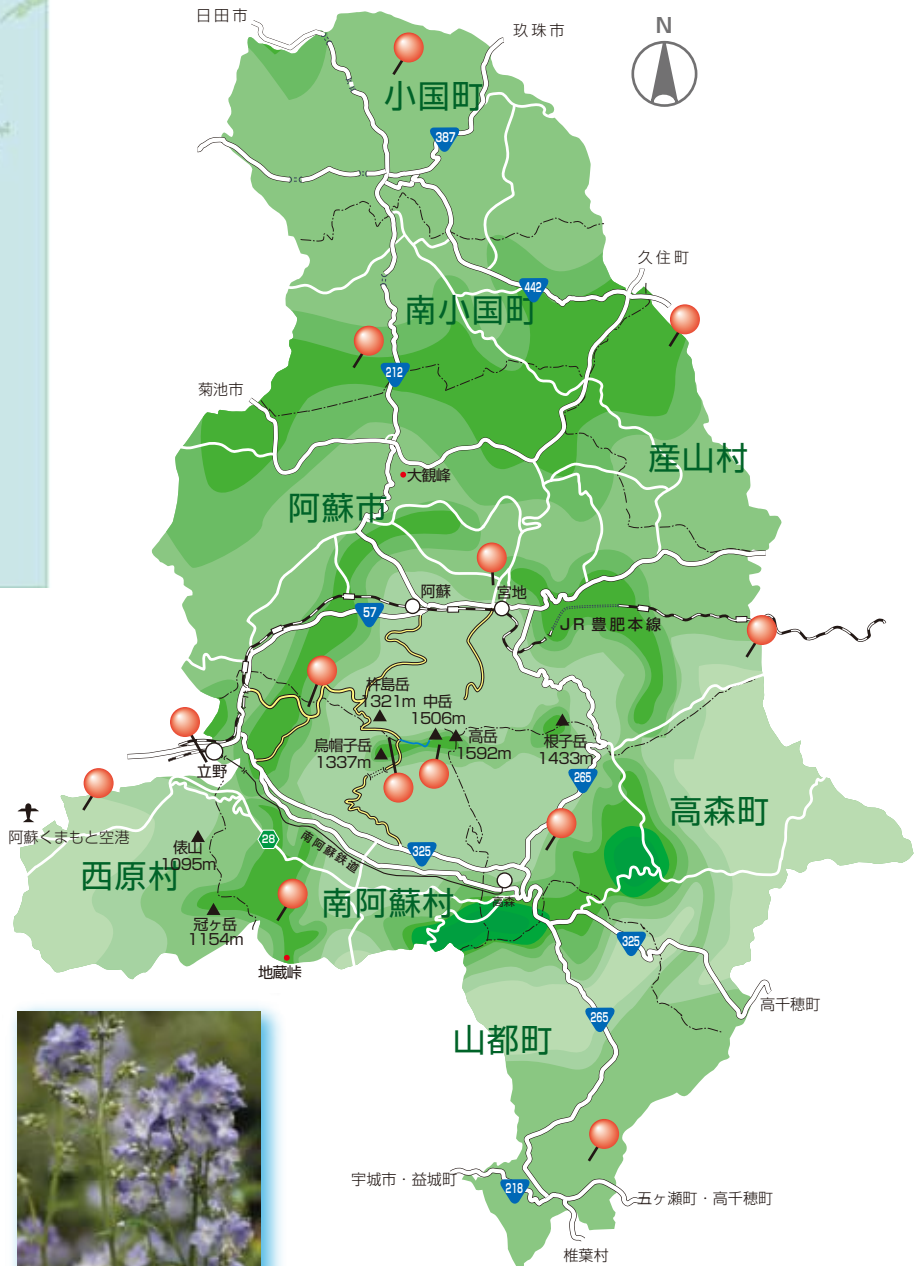


阿蘇ジオパークに関する教育普及やジオツアーリズムを開催している機関

- 阿蘇地域振興デザインセンター**
 - 熊本県と阿蘇地域8市町村による公益法人で、市町村の広域連携機能とシンクタンク機能を持っています。地域振興、観光振興、環境・景観保全、情報発信の4つを柱に事業活動しています。「スローな阿蘇づくり・阿蘇カルデラツアーリズム」の牽引役で、「阿蘇自然案内人協会」や「阿蘇エコツアーリズム」の事務局も担っています。
- 阿蘇火山博物館**
 - 阿蘇に関する地形や地質・火山活動に関する展示を中心に、動植物・歴史民俗学などについても総合的に展示。火口カメラによる映像情報など、新鮮な情報提供に加え、学芸員を中心とした様々な教育・普及活動を展開しています。
- 南阿蘇ビジターセンター**
 - 阿蘇でみられる様々な動植物について展示しています。ここでは自然と人々の暮らしを紹介し、自然とのふれあいを深めるために、阿蘇パークボランティアを中心とする様々な普及活動を実施しています。併設する阿蘇野草園では、阿蘇にしか生息していない希少植物をはじめとする1000種類以上の山野草を観察することができます。
- ASO 田園博物館**
 - 阿蘇市全域を博物館とみなし、エコミュージアム的な活動を展開する“屋根のない博物館”です。人・もの・くらしなど、“阿蘇の宝”を再発見し、個性を活かした物語をつくり、自然・歴史・伝統・文化を後世に伝える活動を実施。地元の有志が多く活動に参加しています。
- 阿蘇自然案内人協会**
 - 阿蘇におけるエコツアーリズムの普及推進を図るため、地域内外のベテランの自然案内人による質の高いエコツアーを提供し、年々、参加者が増加しています。熟練のガイドが多数在籍し、阿蘇エコツアーリズムの牽引役として活動中です。
- 国立阿蘇青少年交流の家**
 - 施設は中央火口丘の中腹にあり、研修をはじめ、学習、合宿、サークル活動、交流・親睦、余暇活動など、団体宿泊生活を通じた多様な活動や体験学習を行っています。健全な青年の育成を図ることを目的とした社会教育施設です。

- 阿蘇たにびと博物館**
 - 阿蘇地域全体を博物館とみなして活動するエコミュージアムです。屋外のフィールドを案内する「阿蘇さるく会」の実施や、阿蘇に生きる人々を直接紹介する「谷人ツアーリズム」などを実施しています。このほか、会誌(博物誌「谷人」)の発行や、阿蘇の民俗学などを研究する学生たちの支援なども行っています。
- なみの高原やすらぎ交流館**
 - 都市と農村の交流拠点として、廃校となった小学校舎を活用する宿泊・研修施設。幅広い人々を対象に、波野地区ならではの自然・文化・農林業などの様々な体験活動や地元講師との交流活動を実施。“第二のふるさと”として愛着を持ってもらい、地域の活性化を図ることを目的としています。
- 阿蘇エコツアーリズム協会**
 - 阿蘇地域内13団体により設立。多様化していく観光客のニーズへの対応と、各エコツアーリズム推進団体が実施しているプログラム情報を一元化することで、広域的・一体的な情報発信機能の充実や受け入れ態勢を整備しています。さらに地域の活性化と環境・景観の保全、人材育成にも力を入れ、今後は「ガイド養成講座」を開催していく予定です。

ACCESS



九州各県から阿蘇までの交通アクセス

【列車】

- 福岡 / 長崎 / 鹿児島 → JR 熊本駅
 - 〈福岡〉JR 博多駅からJR 鹿児島本線 特急「リレーつばめ」で約1時間10分
 - 〈長崎〉JR 長崎駅からJR 長崎本線特急「かもめ」でJR 鳥栖駅へ。JR 鳥栖駅で特急「有明」または特急「リレーつばめ」に乗り換え。約2時間35分
 - 〈鹿児島〉JR 鹿児島中央駅からJR 鹿児島本線 九州新幹線「つばめ」でJR 新八代駅へ。新八代駅で特急「リレーつばめ」に乗り換え。約1時間
- JR 熊本駅 → JR 阿蘇駅
 - JR 豊肥本線宮地行き普通列車で約1時間30分。九州横断特急で約1時間
- 大分 → JR 阿蘇駅
 - JR 大分駅からJR 豊肥本線 特急「九州横断特急」で約1時間50分

【バス】

- 福岡 長崎 宮崎 鹿児島 → 熊本交通センター
 - 〈福岡〉JR 博多駅交通センターから高速バス「ひのくに号」で約2時間10分
 - 〈長崎〉JR 長崎駅から高速バス「りんどう号」で約3時間10分
 - 〈宮崎〉JR 宮崎駅から高速バス「なんぷう号」で約3時間15分
 - 〈鹿児島〉JR 鹿児島空港から人吉行きに乗車。人吉産交にて下車後、「ひとよし号」に乗り換え。約2時間50分
- 熊本交通センター → 阿蘇くまもと空港 → JR 阿蘇駅前バス停
 - 「やまびこ号」、「九州横断バス」で約1時間30分
 - ※阿蘇くまもと空港からの乗車も可能（阿蘇まで約50分）
- 熊本交通センター → 阿蘇くまもと空港 → 高森中央バス停
 - 「たかちほ号」で約1時間30分
 - ※阿蘇くまもと空港からの乗車も可能（高森まで約50分）
- 大分 → JR 阿蘇駅前バス停
 - 大分県庁正門前から「やまびこ号」で約2時間
- 別府（大分） → JR 阿蘇駅前バス停
 - JR 別府駅前から「九州横断バス」で約3時間
- 延岡（宮崎） → 高森中央バス停
 - JR 延岡駅前から「たかちほ号」で約2時間15分
- 福岡 → 黒川温泉
 - 博多駅交通センターから（天神経由）黒川温泉直行 高速バスで約3時間



阿蘇ジオパーク推進協議会

阿蘇市 南小国町 南阿蘇村 阿蘇エコツーリズム協会 熊本県阿蘇地域振興局
 自然公園財団阿蘇支部 小国町 産山村 高森町 西原村 山都町 国立阿蘇青少年交流の家
 ASO 田園空間博物館 阿蘇ミュージアム なみの高原やすらぎ交流館 阿蘇自然案内人協会
 阿蘇たにびと博物館 阿蘇地区パークボランティアの会 阿蘇市観光協会 南小国町観光協会
 小国ツーリズム協会 産山村観光協会 高森町観光協会 南阿蘇村観光協会 山都町観光狭隘
 阿蘇火山博物館 熊本大学 京都大学火山研究センター 熊本地学会 熊本県地質調査業協会
 阿蘇の自然を愛護する会 阿蘇グリーンストック 阿蘇地域振興デザインセンター

事務局 財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

熊本県阿蘇市一の宮町宮地 2402 熊本県阿蘇総合庁舎内

TEL. 0967-22-4801 FAX. 0967-22-4802